

科研・基盤A: 外国産ジャポニカ米の官能食味試験評価および国産米競争力分析  
に関する学際研究

中間報告会セミナー

Akita, Japan

# 世界のコメ需給の現状と TPPのシナリオ予測

Shoichi Ito, *Ph.D.* 伊東正一

[sito@agr.kyushu-u.ac.jp](mailto:sito@agr.kyushu-u.ac.jp)

*Kyushu University, Japan* 九州大学大学院農学研究院

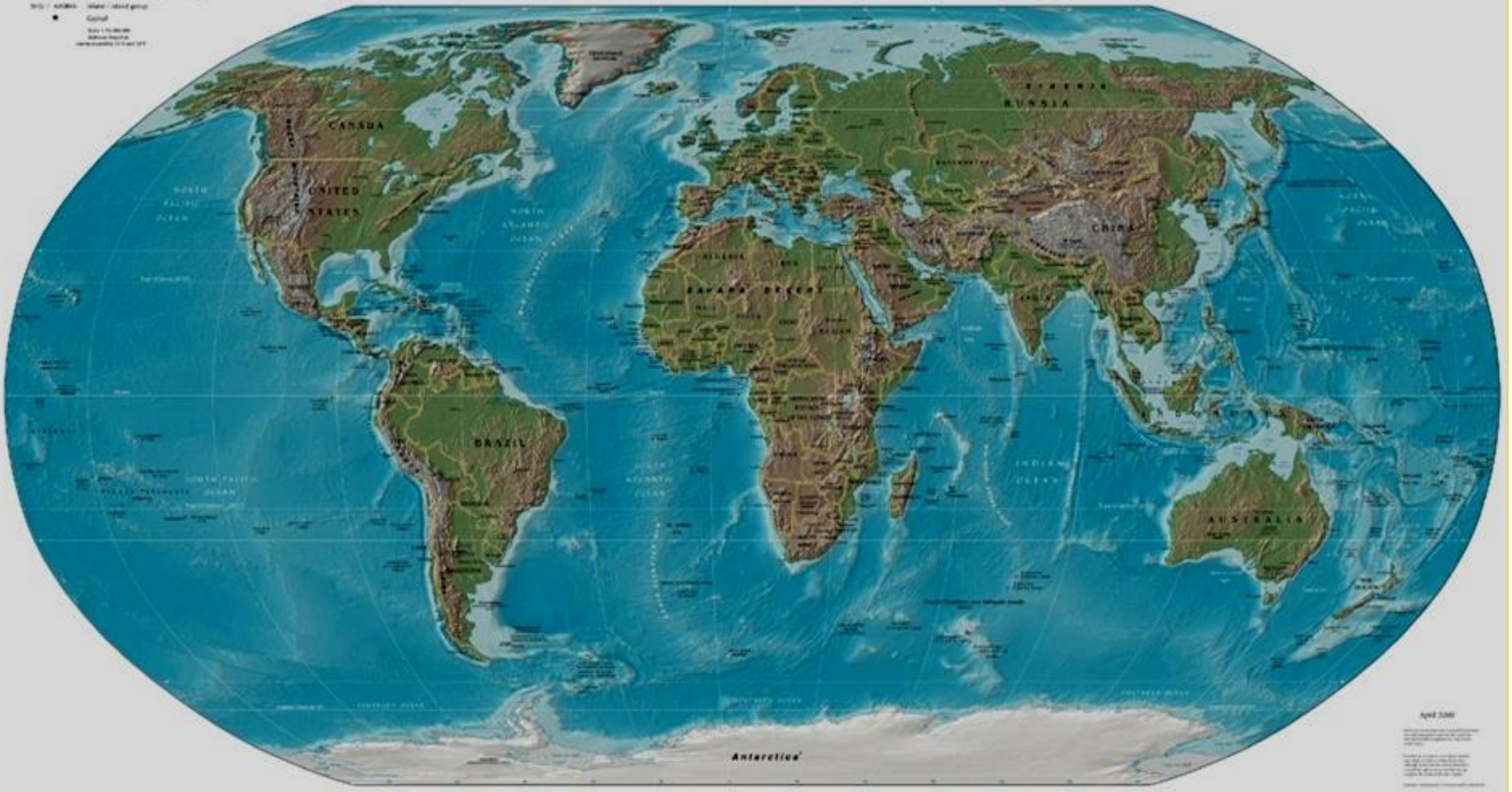
<http://worldfood.apionet.or.jp>

March 21, 2014

# - 本日のポイント -

- **世界のコメ生産と流通**
- **世界のコメ貿易とTPPのコメ市場構造**
- **ジャポニカ米の国際市場価格と  
輸入価格シミュレーション**
- **秋田県の国際的潜在性**

■ **BOUNDARY** International water  
 ■ **Boundary** Discontinuity or area of special significance  
 ■ **Area / outline** Name / island group  
 ■ **Coastal**  
 ■ **Sea / island**  
 ■ **Sea / island**  
 ■ **Sea / island**



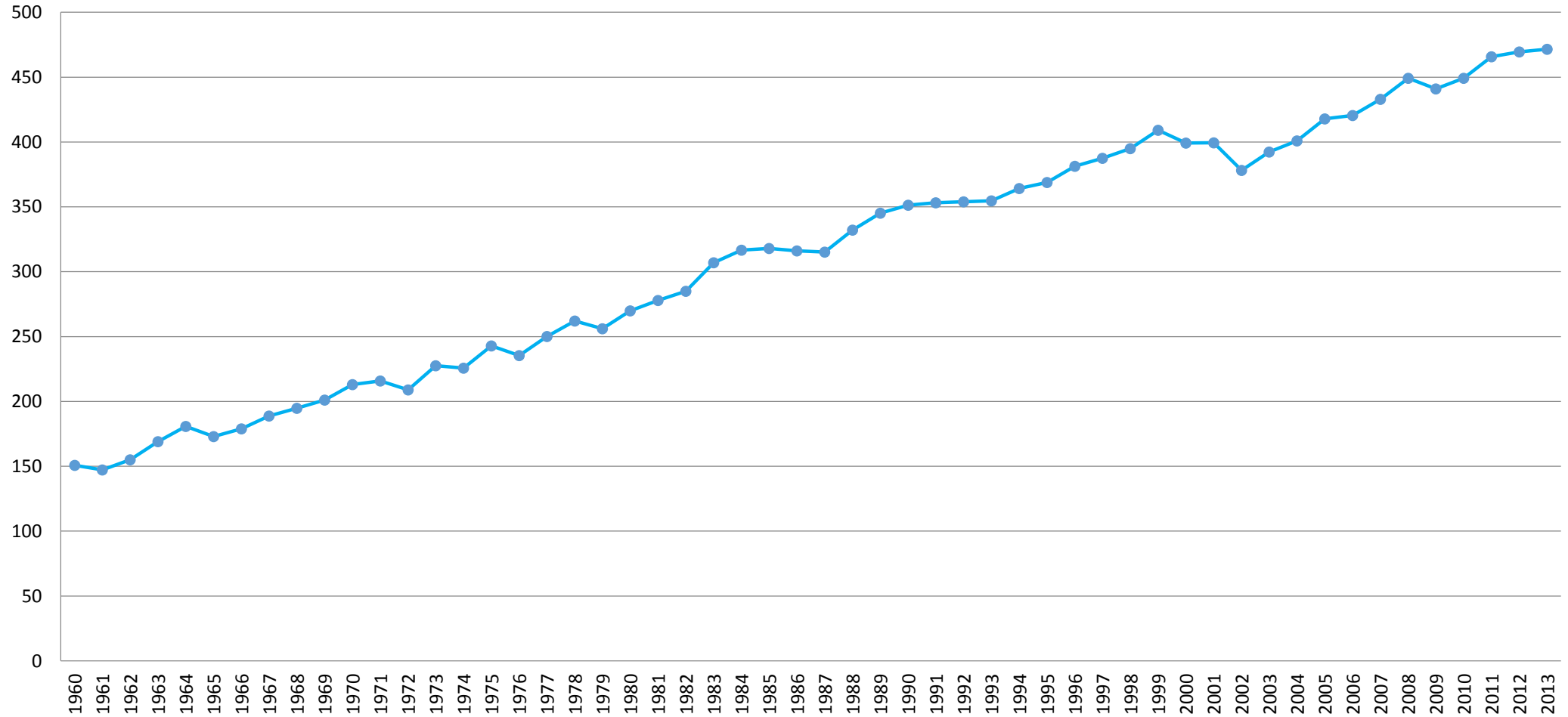
April 2008

This map was prepared by the National Geographic Society's Cartographic Center. It is based on the best available data and is not intended to be used for navigation. The map is published in accordance with the National Geographic Society's Terms of Use.

www.nationalgeographic.com

# 図1. 世界のコメ生産量の推移、1960年-2013年

生産量(百万トン、精米)



Source: S. Ito; World Food Statistics and Graphics (<http://worldfood.apionet.or.jp>), Kyushu University, Japan March 2014

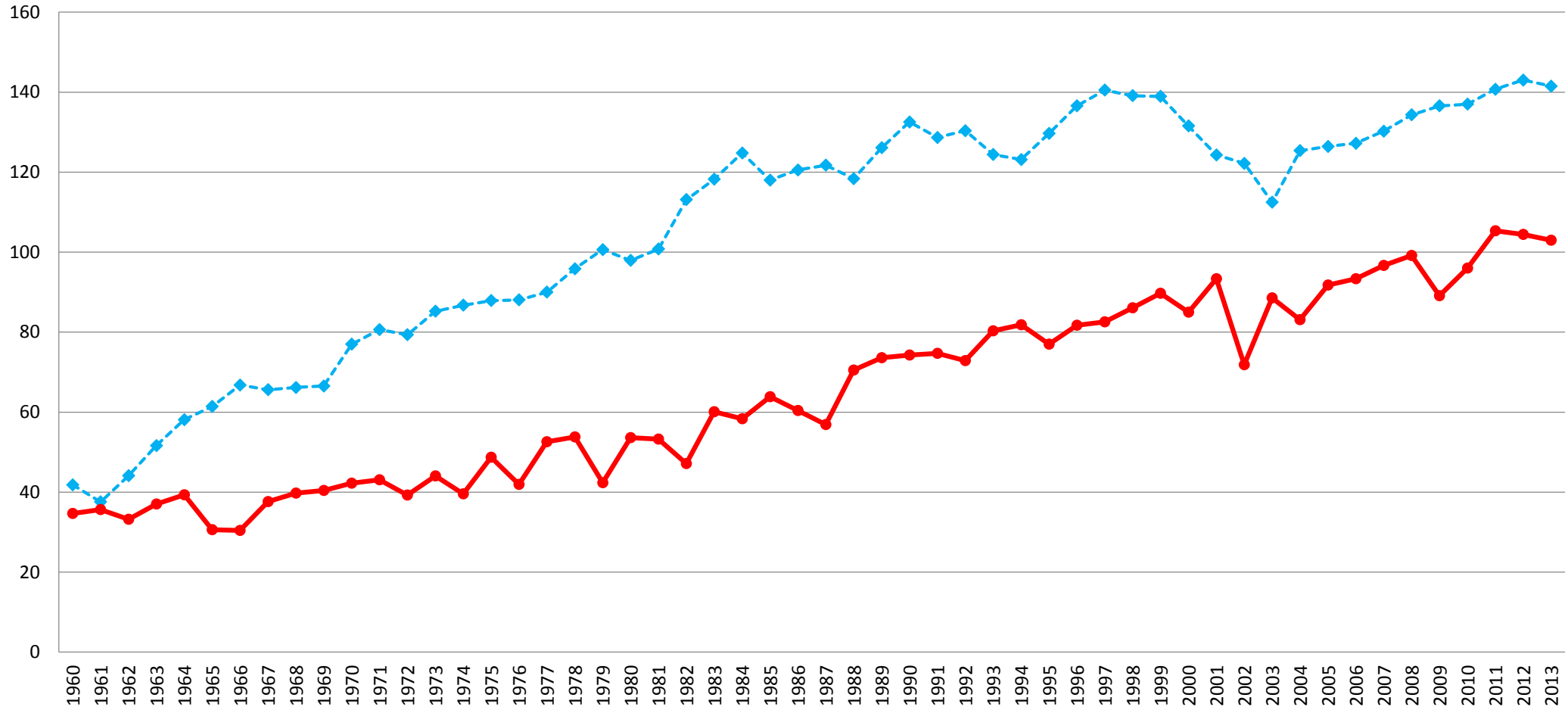
(Original sources are from ERS/USDA; PSD Online, August 2007). Note: Rice is milled basis.

ソース:伊東正一「世界の食料統計」<http://worldfood.apionet.or.jp/graph/index.html>, March 2014

## 図2. 中国及びインドのコメ生産量の推移、1960年-2013年

生産量(百万トン、精米)

—◆— 中国の生産量    —●— インドの生産量



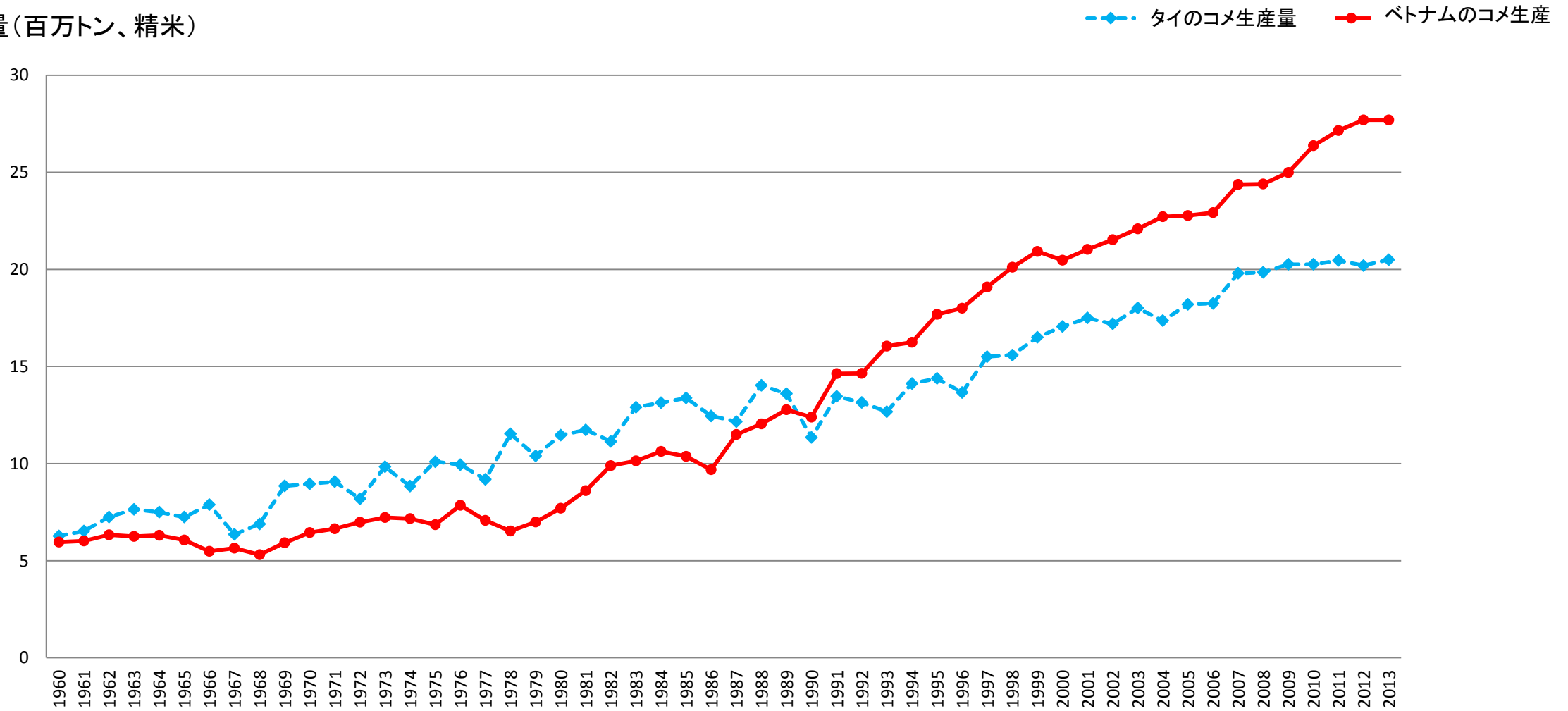
Source: S. Ito; World Food Statistics and Graphics (<http://worldfood.apionet.or.jp>), Kyushu University, Japan March 2014

(Original sources are from ERS/USDA; PSD Online, August 2007). Note: Rice is milled basis.

ソース: 伊東正一 「世界の食料統計」<http://worldfood.apionet.or.jp/graph/index.html>, March 2014

図3. タイ及びベトナムのコメ生産量の推移、1960年-2013年

生産量(百万トン、精米)



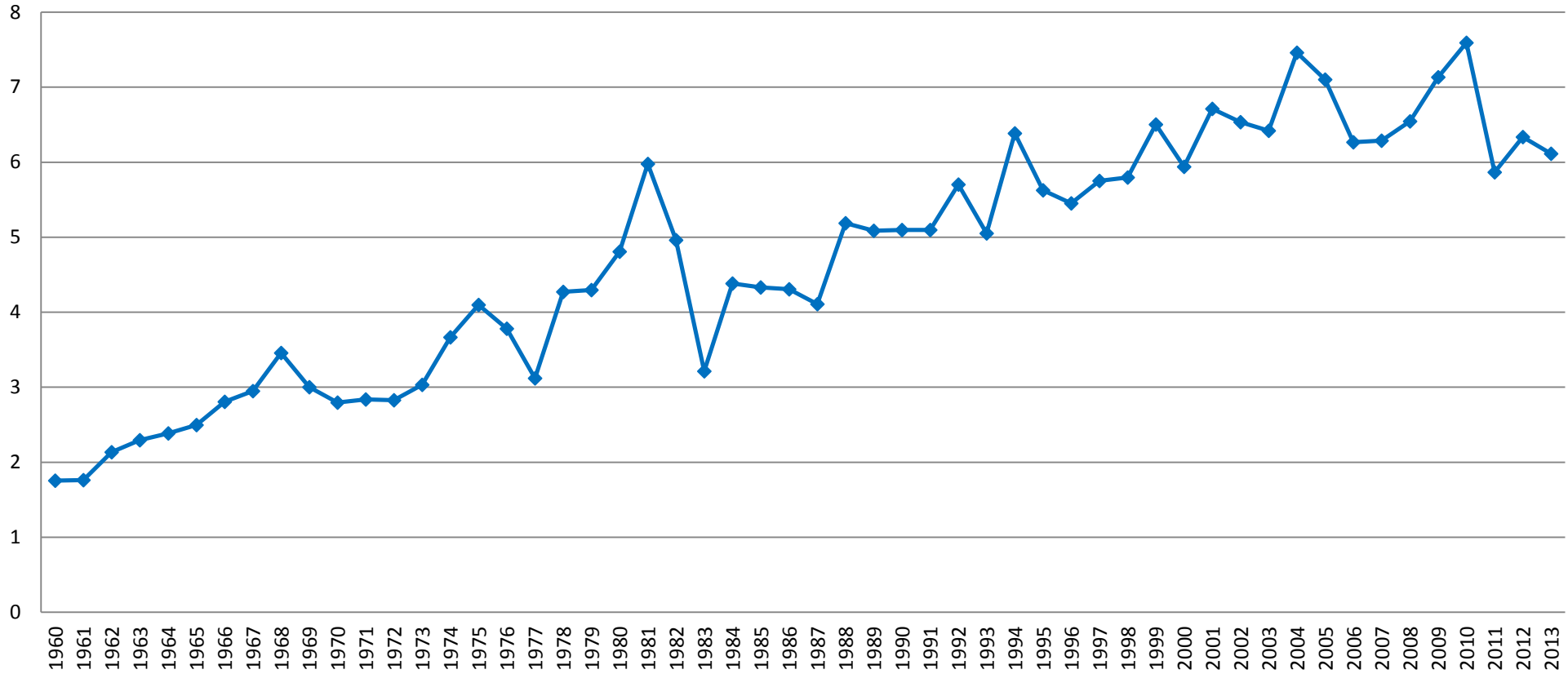
Source: S. Ito; World Food Statistics and Graphics (<http://worldfood.apionet.or.jp>), Kyushu University, Japan March 2014

(Original sources are from ERS/USDA; PSD Online , August 2007). Note: Rice is milled basis.

ソース: 伊東正一 「世界の食料統計」<http://worldfood.apionet.or.jp/graph/index.html>, March 2014

# 図4. 米国のコメ生産量の推移、1960年-2013年

生産量(百万トン、精米)



Source: S. Ito; World Food Statistics and Graphics (<http://worldfood.apionet.or.jp>), Kyushu University, Japan March 2014

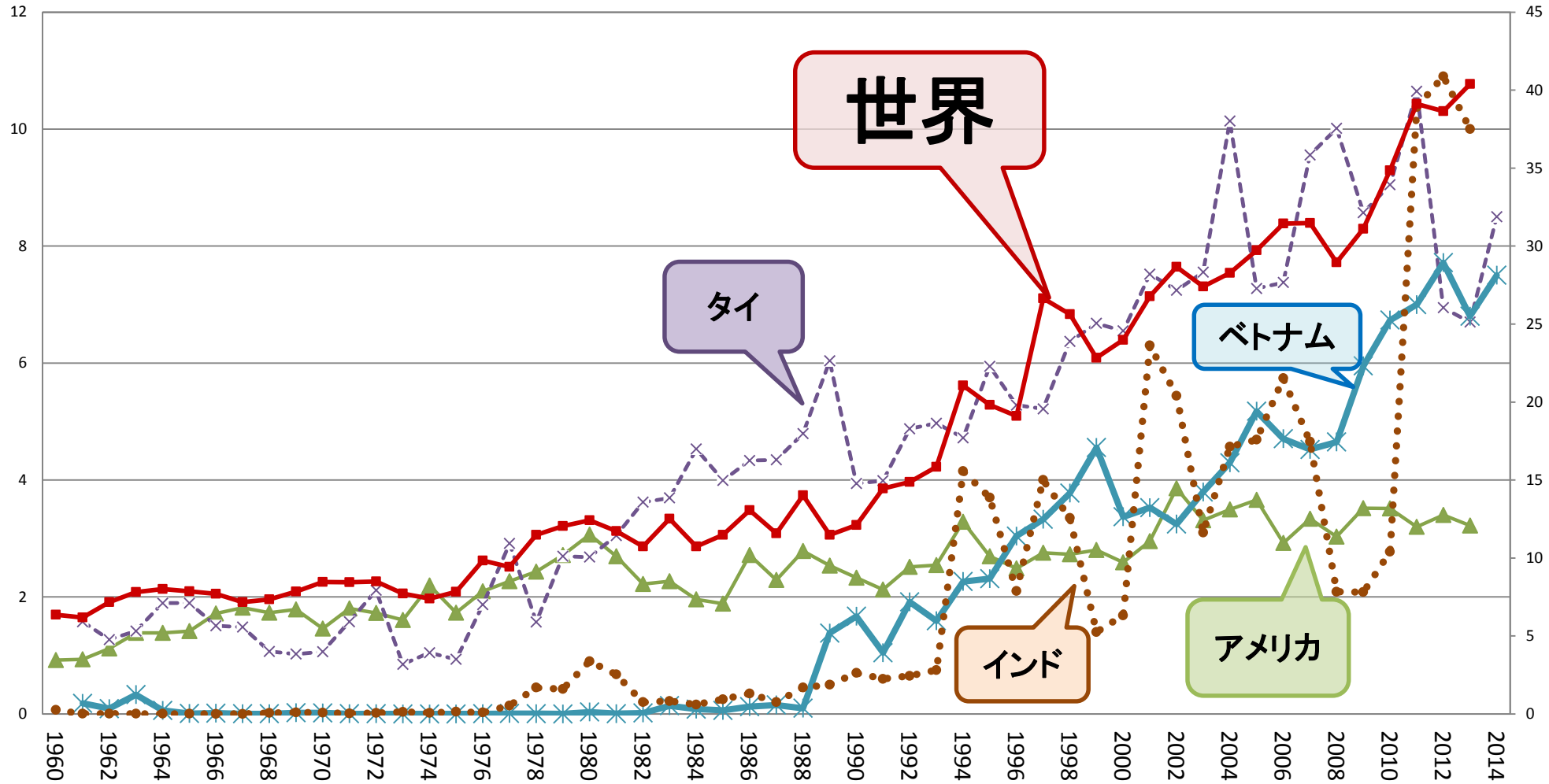
(Original sources are from ERS/USDA; PSD Online, August 2007). Note: Rice is milled basis.

ソース: 伊東正一 「世界の食料統計」<http://worldfood.apionet.or.jp/graph/index.html>, March 2014

図5. 世界及び主要国のコメ輸出量の推移、1960年-2014年

各国(百万トン)

世界(百万トン)



ソース: 伊東正一 「世界の食料統計」<http://worldfood.apionet.or.jp/graph/index.html>, March 2014



# 世界の貿易量: コメ、コムギ、コーン、ダイズ

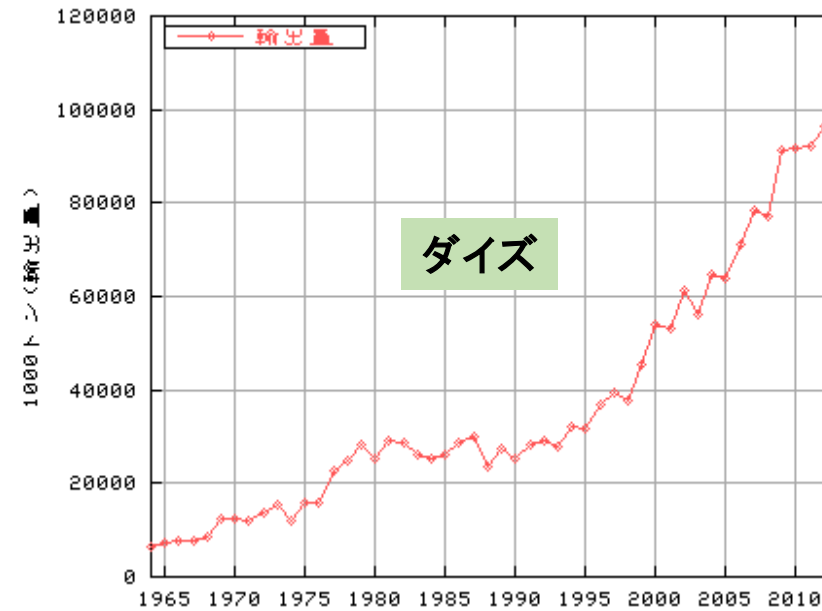
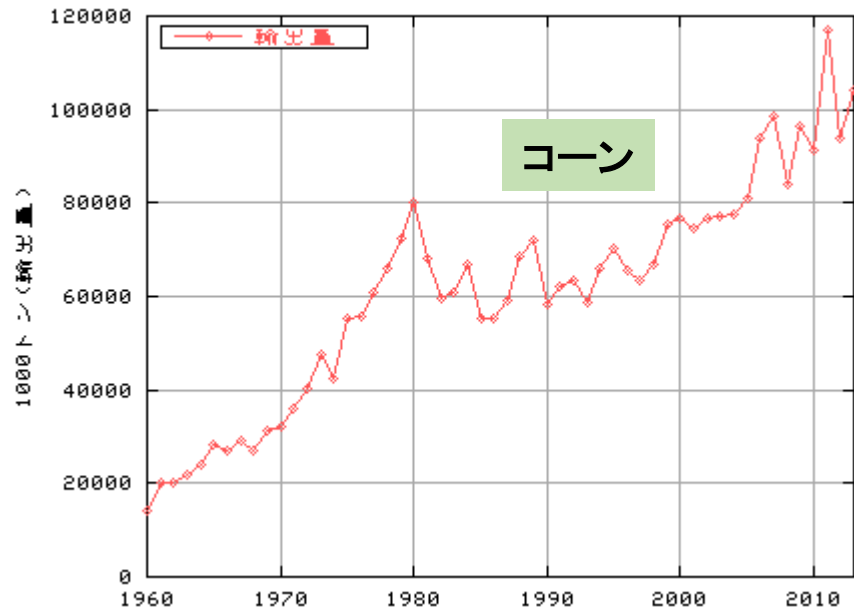
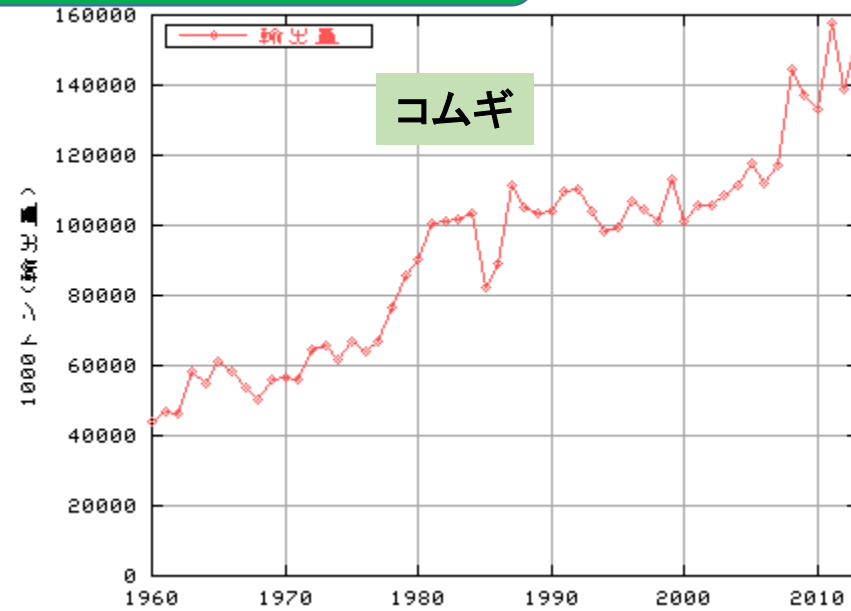
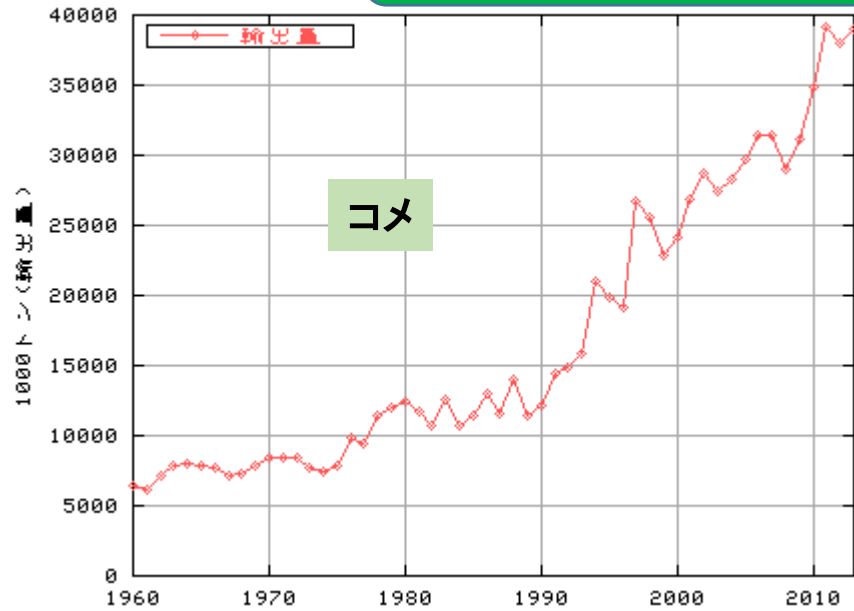
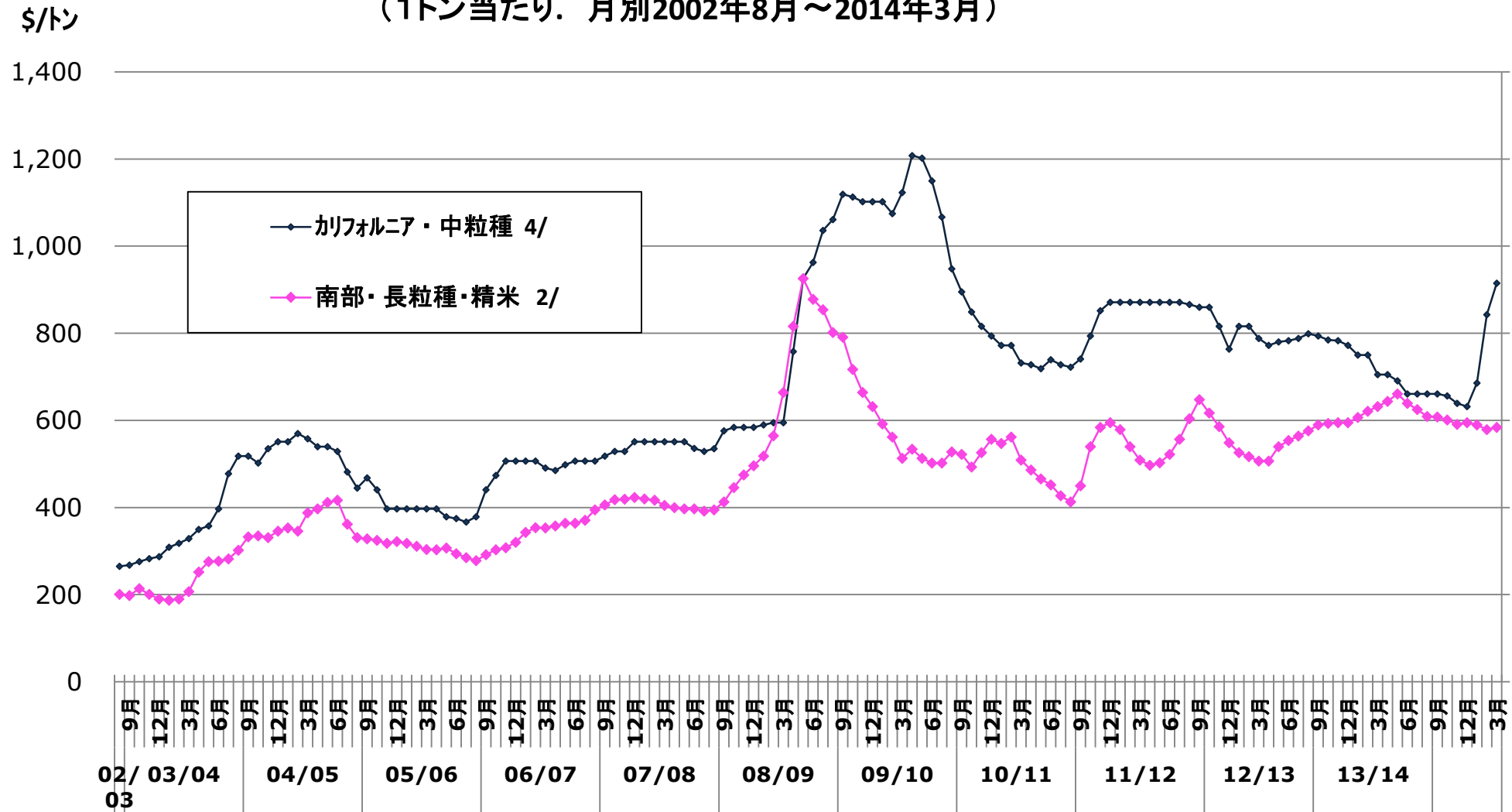


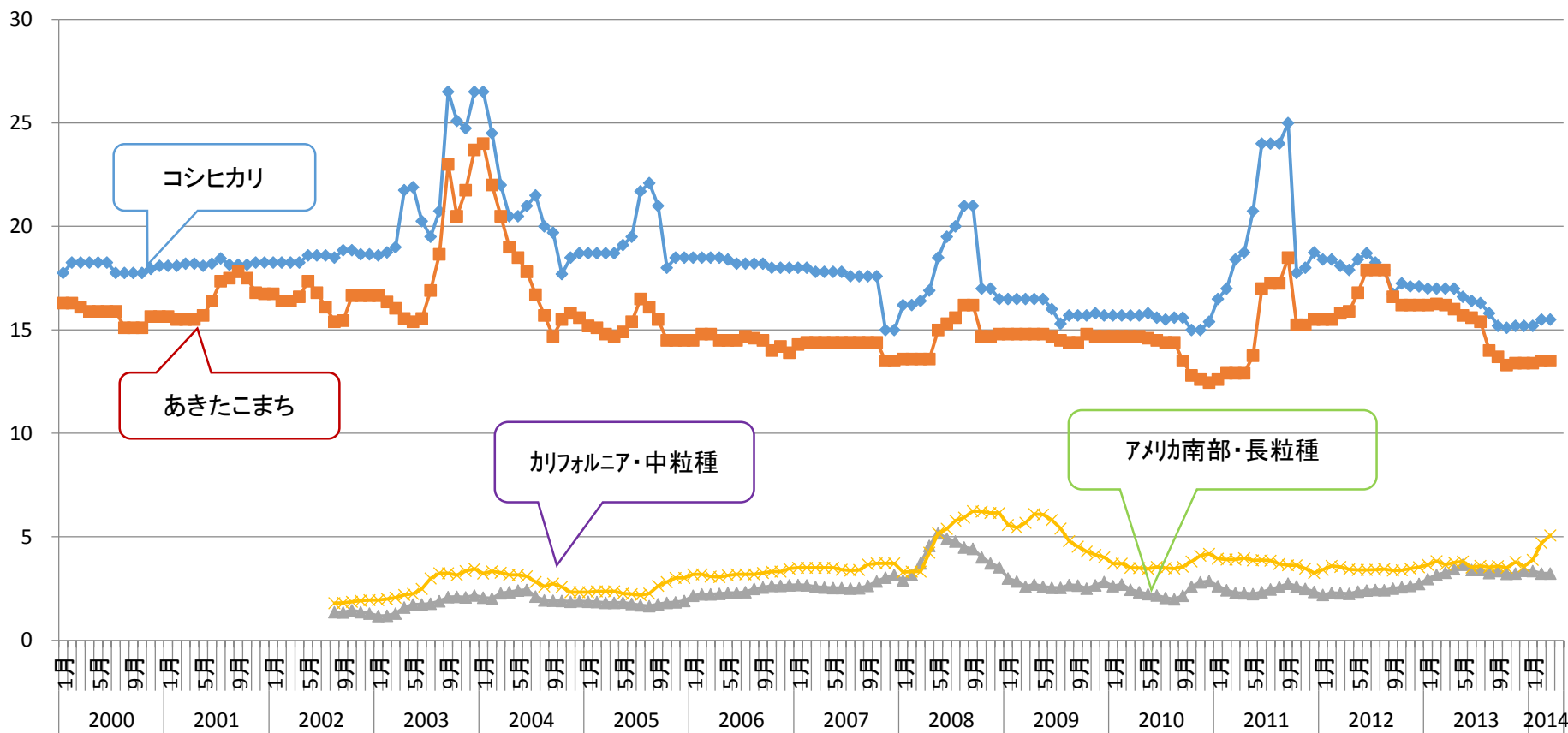
図6. アメリカにおける精米価格の動き  
(1トン当たり. 月別2002年8月～2014年3月)



ソース：米国農務省(USDA): Rice Situation and Outlook Yearbook.  
2005/06年以降のデータは Rice Outlook, Mar. 12, 2014より引用した。

図8.1b 日本とアメリカにおけるコメの国内価格の比較、  
玄米60kg当たり円(2000年1月-2014年3月)

(1000円/玄米60kg)



ソース: 米国農務省(USDA)及び日本経済新聞

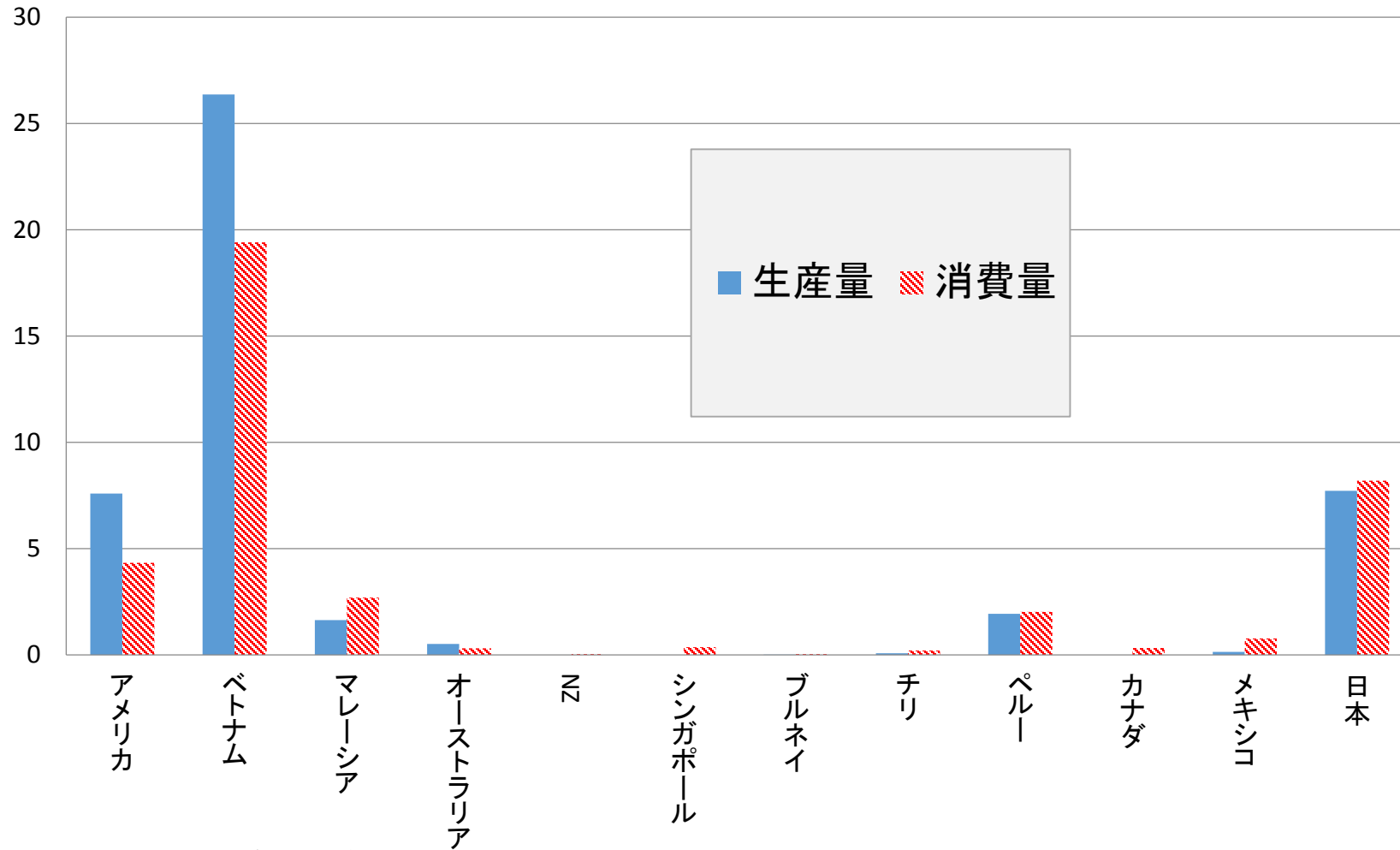
九州大学農学研究院農政学教室 (代表: 伊東正一) <http://worldfood.apionet.or.jp/riceprice/ricepriceJ.htm>

注: 為替レートは、三菱UFJリサーチ&ファイナンスの年平均から引用した。 [http://www.murc-kawasesouba.jp/fx/past\\_3month.php](http://www.murc-kawasesouba.jp/fx/past_3month.php)

# コメから診る TPPとそのシナリオ

図2.1 TPP交渉10か国におけるコメの生産と消費量、2010年

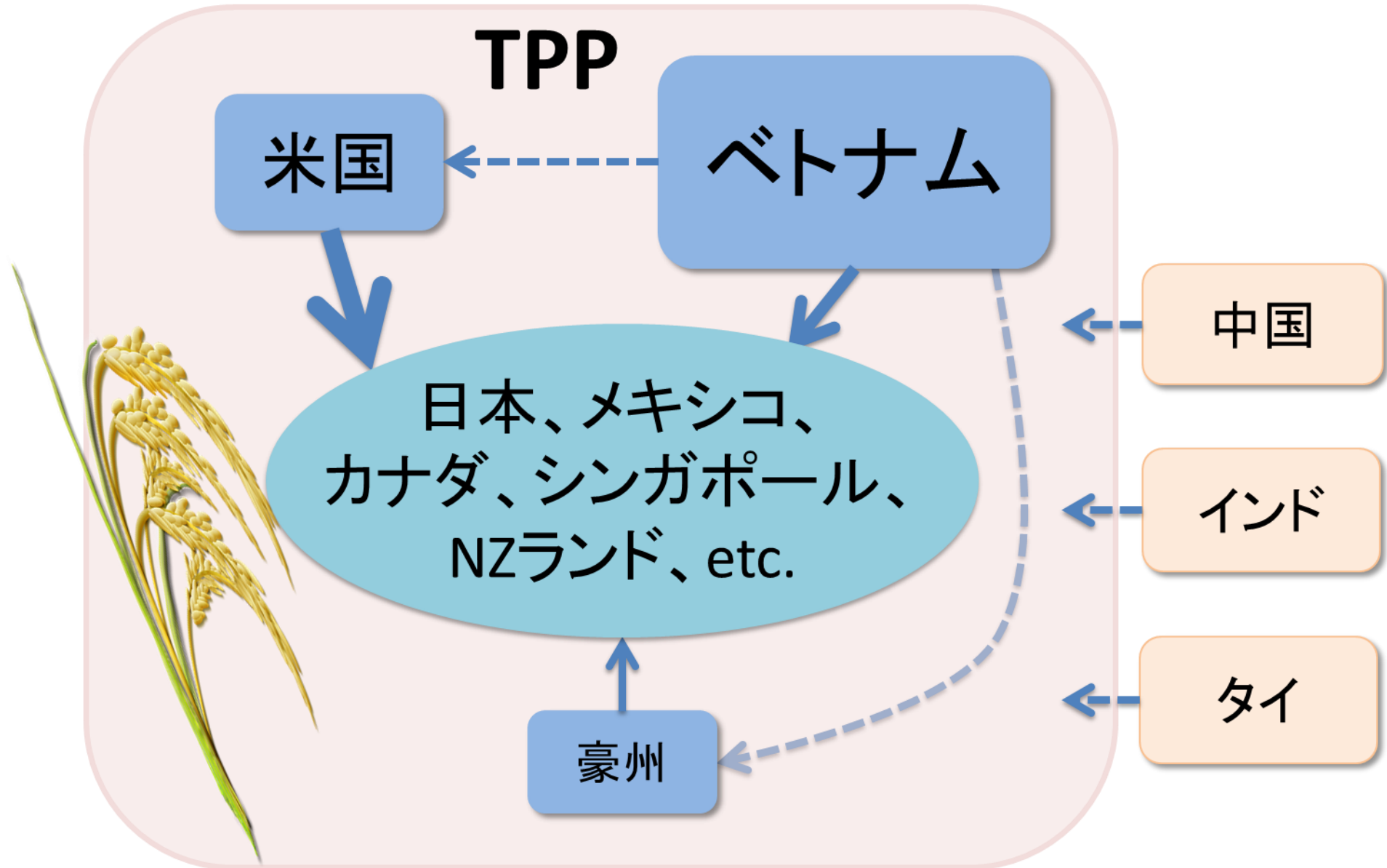
(百万ト、精米換算)



注: NZはニュージーランド

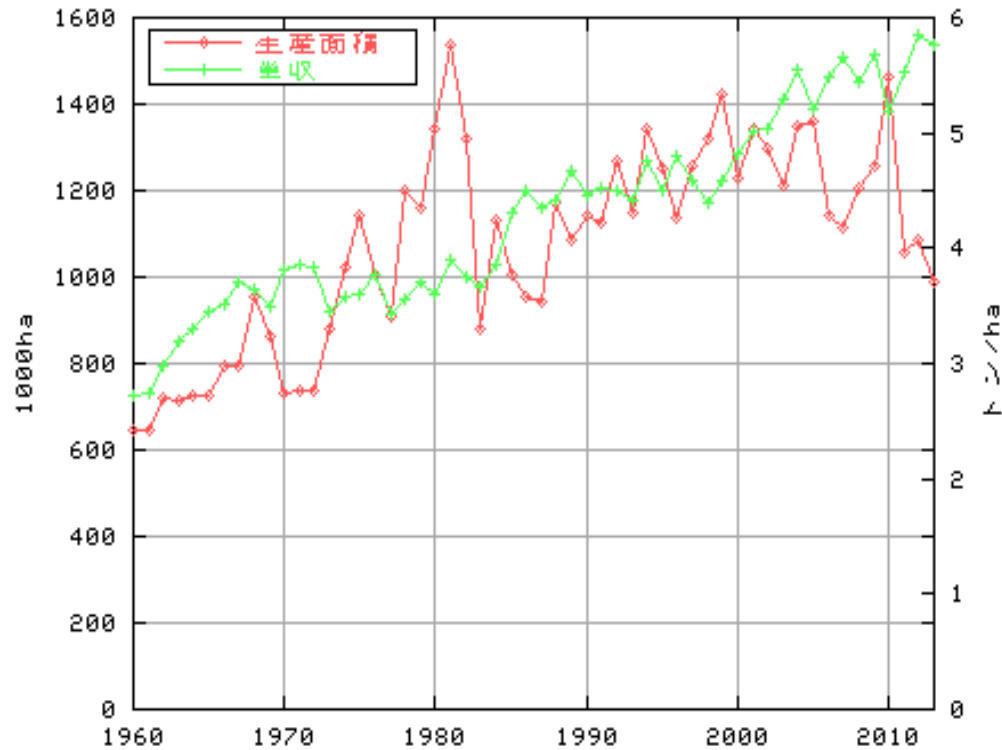
ソース:伊東正一「世界の食料統計」 <http://worldfood.apionet.or.jp/graph/index.html>, Sep. 2013

図7 コメをめぐるTPPの貿易市場争奪の構造

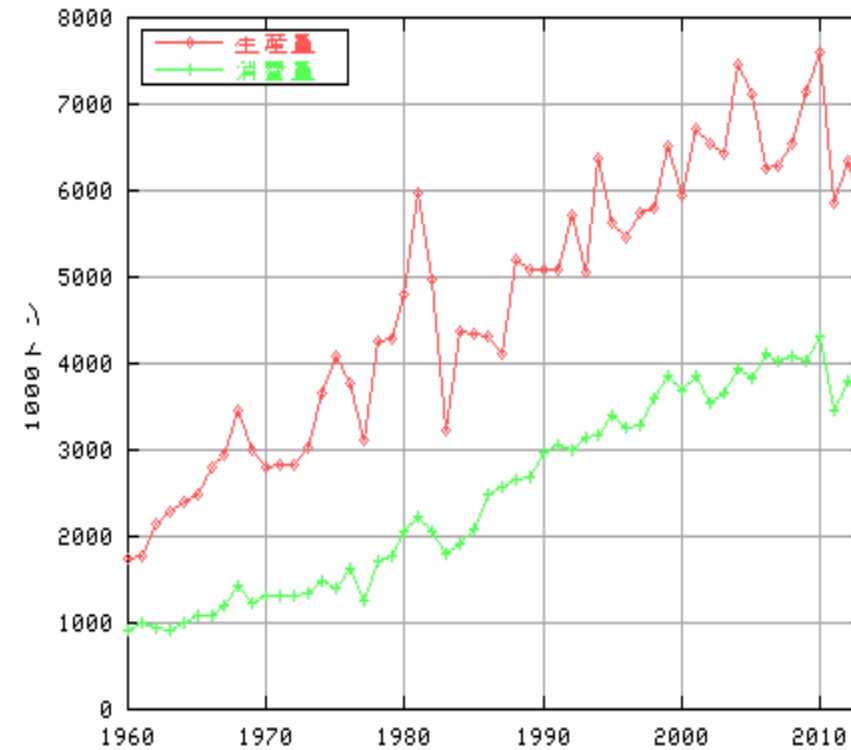


# 米国のコメ生産及び消費の推移

生産面積と単収(精米換算)



生産量と消費量(精米換算)



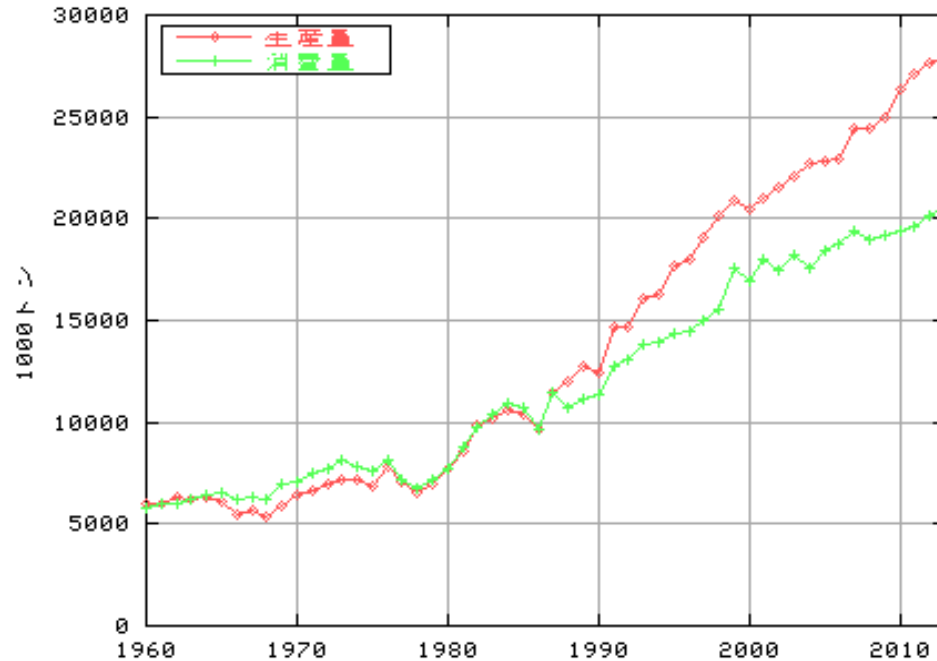
**米国の生産は相場に左右、変化大きい**

Sources: 伊東正一: 世界の食料統計、<http://worldfood.apionet.or.jp/graph/index.html>  
元データ: USDA: PS&D Online July 2013;  
USBC: International Data Base, July 2003.

# ベトナム及び豪州のコメ生産量の推移

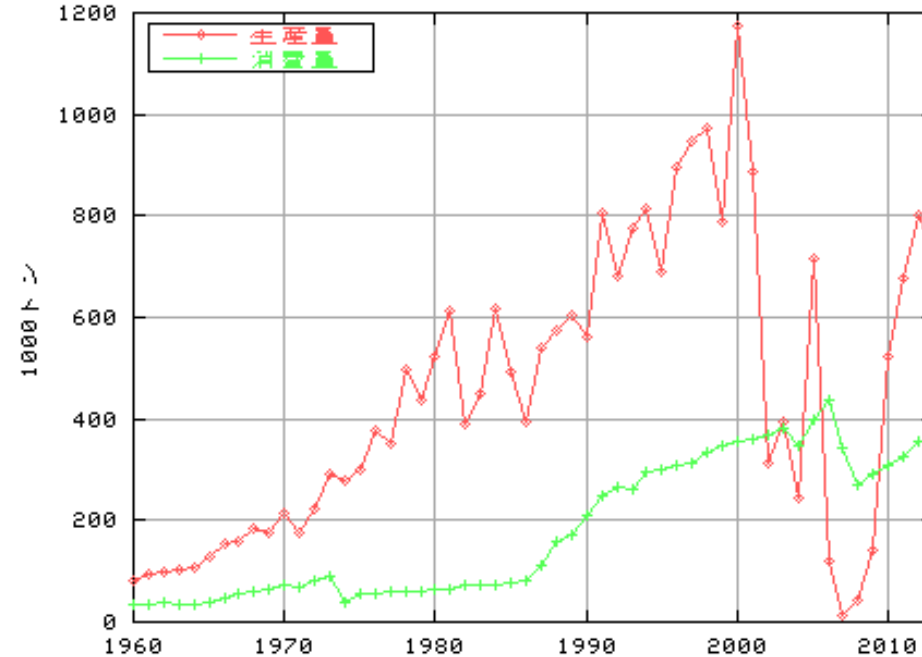
## ベトナム

生産量と消費量(精米換算)



## 豪州

生産量と消費量(精米換算)



**ベトナムの威力は大、豪州は小**

Sources: 伊東正一: 世界の食料統計、<http://worldfood.apionet.or.jp/graph/index.html>

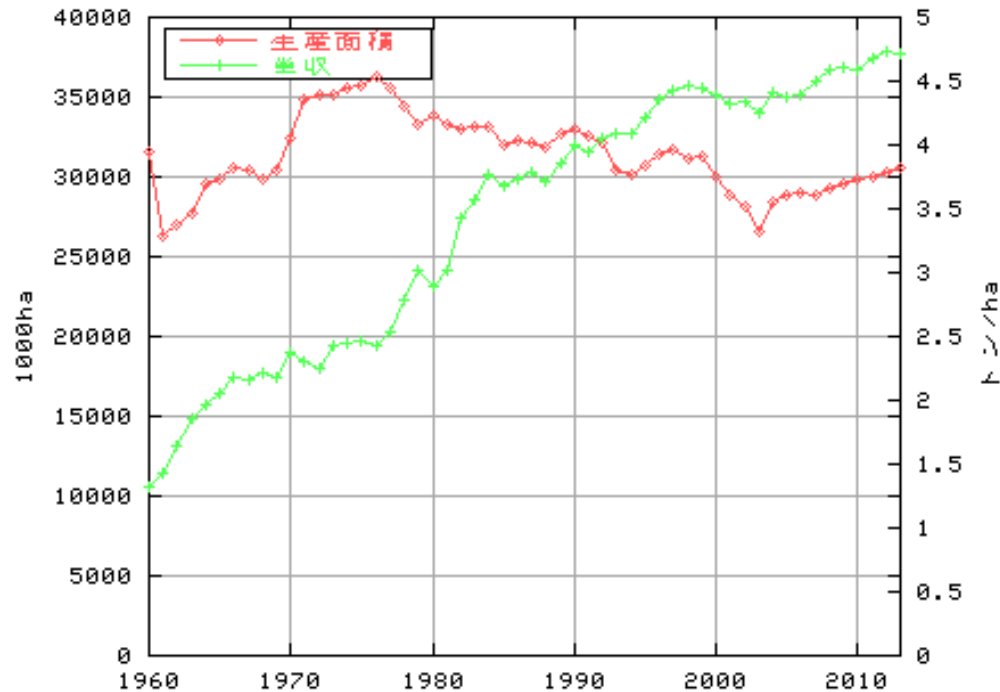
元データ: USDA: [PS&D Online](#) May 2013;

USBC: [International Data Base](#), July 2003.

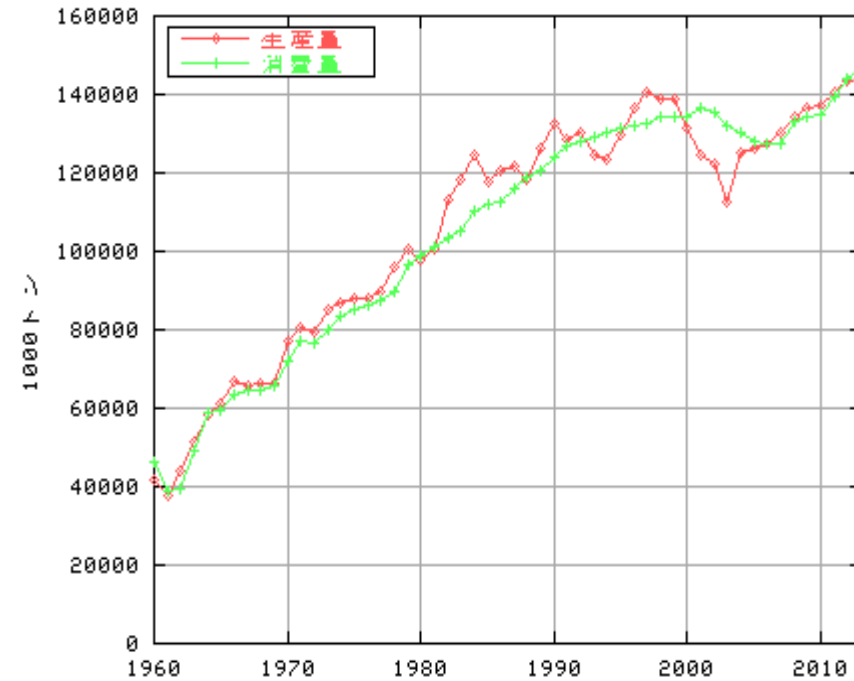


# 中国のコメ生産及び消費の推移

生産面積と単収(精米換算)



生産量と消費量(精米換算)



**中国の収穫面積は近年5年間に100万haの増加**

Sources: 伊東正一: 世界の食料統計、<http://worldfood.apionet.or.jp/graph/index.html>

元データ: USDA: [PS&D Online](#) March 2013;

USBC: [International Data Base](#), July 2003.

表1. 日本のコメ輸入が完全に自由化され加州産米の価格がア州産長粒種並みに下落した場合のFOB価格と輸入米の小売価格の推定値

(精米10kg当たり、コメの完全自由化で加州米相場がア産長粒種と同じレベルに値下がりした相場を想定)

	ア州産コシ	加州産キャル	加州産あきた	黒産合江19
海外				
(1) FOB価格	\$14.19	\$8.78	\$14.03	\$10.93
(2) 海上輸送費	\$0.70	\$0.50	\$0.50	\$0.30
(3) 海上保険料 $\{[(1)+(2)] \times 0.006\}$	\$0.03	\$0.03	\$0.03	\$0.02
(4) 金利 $\{[(1)+(2)+(3)] \times 0.012\}$	\$0.05	\$0.06	\$0.06	\$0.04
(5) 輸入業者手数料 $\{[(1)+(2)+(3)] \times 0.03\}$	\$0.14	\$0.14	\$0.15	\$0.10
(6-1) CIF 価格(日本) $\{[(1)+(2)+(3)+(4)+(5)]\}$	\$15.11	\$9.51	\$14.76	\$11.40
-----				
(6-2) 円建てCIF価格(為替レート円/ドル)¥100	¥1,511	¥951	¥1,476	¥1,140
(7) 関税, %	0	0	0	0
-----				
国内				
(8) 通関手数料(7,000円/トン)	¥70	¥70	¥70	¥70
(9) 倉庫保管料(600円/トン10日x45日)	¥27	¥27	¥27	¥27
<b>(10) 倉庫渡し価格 <math>\{(6-2)+(8)+(9)\}</math></b>	<b>¥1,608</b>	<b>¥1,048</b>	<b>¥1,573</b>	<b>¥1,237</b>
(11) (玄米60kg当たり推定価格)	¥8,115	¥5,090	¥7,927	¥6,583
(12) 国内販売手数料(600円/10kg)	¥600	¥600	¥600	¥600
<b>(13) 小売価格 <math>\{(10)+(12)\}</math></b>	<b>¥2,208</b>	<b>¥1,648</b>	<b>¥2,173</b>	<b>¥1,837</b>
-----				
(14) 評価価格	¥2,910	¥2,066	¥2,832	¥2,628
(15) 消費者のメリット $\{(14)-(13)\}$	¥702	¥418	¥659	¥791
-----				
(16) 消費者のメリットを0とする関税率	44%	42%	43%	66%

注) 外国産米の評価価格は伊東正一著『世界のジャポニカ米、その現状と生産能力』食糧振興会叢書 No.43, 1994年、p.164を参考にした。なお、(1)のFOB価格は現在の生産コストを参照し、修正した。(11)の算出においては10kg精米用の袋代を差し引いている。また、(14)の評価価格は2012年11月から2013年4月に行った官能食味試験の結果を用いた。

注: 2013年5月28日に(11)について10kgの袋代を(10)から差し引いて計測した。

注: 港までの出荷経費を精米10kg当たり0.15ドルとした。

注: (16)の消費者のメリットを0とする関税において消費税5%を考慮した。

# コメのTPPシナリオ・・・

- ・ **いま、完全自由化になった場合**
  - ・ 外国産ジャポニカ米は玄米60kg8千円前後
  - ・ 日本の相場は20%から25%安
- ・ **今後のTPP交渉**
  - ・ 二国間交渉で決着か・・・？
  - ・ 米国、ベトナム、豪州に割り当て
    - ・ 実質的なMA米の拡大
    - ・ 関税(341円@kg)の大幅引き下げ

# 将来に向けて注目すべきは・・・

## ・中国とインド

- ・巨大なコメ生産量と潜在性
- ・輸出拡大への可能性は大きい

## ・その他の地域

- ・南米諸国：ブラジル、ウルグアイ、アルゼンチン  
気象・土壌の条件は良好
- ・アフリカ諸国も可能性あり

# 秋田県の国際対応策・・・

- アキタコマチは世界中で知れ渡っている、コシヒカリの次に有名。
  - 新品種を国際的に宣伝するためには「アキタ・・・」とした方が良い
  - 「Akita」で差別化を図る。
  - 長期戦略としては、「アキタコマチ」の種子をプロモーションで世界各地に提供する。
    - 農業試験場の国際協力CARDアフリカ稲作支援の取り組みは重要。
    - アキタコマチの種子をおみやげに。
    - 「Akitakomachi」の作り方、原産地の秋田で国際的な講習会を。
    - コメを通じて「Akita」の名前を世界中に宣伝せよ。
    - そうすれば、秋田県産の農産物全体が世界中で注目を浴びることに。
- 「アキタ」のネームヴァリュウでしっかりと世界に売っていく。
- コメの取り組みは秋田県産農産物の輸出戦略の一環として。

## 秋田県の国際対応策・・・つづき

- ・国際化時代に向けた県民意識の高揚
- ・生産コストの削減
- ・有機(無農薬)農産物の生産拡大
- ・消費者への直接販売拡大
- ・輸出拡大支援

**ご清聴**

**ありがとうございます**

**ございました**